

汚染牧草の一時保管事例④ ～岩手県D町～ 軽量鉄骨造倉庫テントによる集中一時保管

①汚染牧草の保有状況

保有農家数	保有量	汚染濃度
60戸	1,300トン(推定)	平均 190Bq/kg 程度

②一時保管の概要

実施主体	・岩手県の補助事業を活用。D町が実施主体。保管施設の設置工事等は地域の農協に委託。搬入は農家が行う。
実施期間	・平成24年9月～ 全棟(14棟)設置完了(25年7月末)。
場所	・D町の町有地
実施方法	・約2.6haを造成し、軽量鉄骨造倉庫テント14棟(延べ床面積約400㎡)を設置しロール等を搬入する。
費用	・230百万円

③保管方法の検討

D町では、農家経営地内での一時保管を実施していたが、ラップの劣化や25年産牧草の置き場に苦慮。焼却に長期間掛かることを想定し、長期展開用テントでの一時保管を検討。

〈ポイント〉

①長期保管対策

流滴剤塗布型遮光フィルムを用いた長期展開用テント(軽量鉄骨造)を設置。

②廃汁対策

ラップサイレージからの廃汁対策として、2棟で土間コンクリート施工、それ以外で遮水シートを敷設。

③住民理解の醸成

地域住民の合意を得るため、説明会を開催。



④作業手順（土間コンクリート施工）

①施工前

- ・ 保管場所として町有地を選定。



②造成

- ・ 建設機械による造成。



③コンクリート打設

- ・ L型擁壁を利用した基礎工事。



④組み上げ

- ・ 軽量鉄骨造：巾9m×奥行45m×軒高3.5m
- ・ 外装には、耐候性の高い流滴剤塗布型遮光フィルムを利用。



⑤完成・搬入

- ・ 25年7月末に14棟全棟完成。
- ・ 一時保管場所までの運搬は生産者が行う。



【参考】倉庫テナントの床面（廃汁対策）

土間コンクリート施工

高水分サイレージ等、長期保管による廃汁流出のリスクが高いロールを保管。緩傾斜をつけ廃汁の横漏れ防止を図る。（2棟）



遮水シート敷設

乾草や低水分サイレージ等、比較的廃汁流出のリスクが低いロールを保管。際部分に返しを施し、廃汁の横漏れ防止を図る。（12棟）



《取組スケジュール》

- 24年8月21日 議会全員協議会に対する説明
- 8月22日 保管施設設置場所地域住民に対する説明会
- 8月31日 町議会で予算議決
- 9月6日～ 集中保管施設設置にかかる伐採・整地・施設設置開始
- 12月3日～ 牧草搬入開始
- 25年7月末現在 保管ハウス全棟(14棟)全棟設置完了